

# INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL  
35

2014

## ●特集 研修医・若手医師・医療スタッフ等の レベル向上を目指して

DOCTOR'S VOICE 01 未来の県内医療を支える医師を育成する

DOCTOR'S VOICE 02 より質の高いがん治療を提供する

DOCTOR'S VOICE 03 医師だけでなく医療人全体の教育を

## 仕事始め式 — 平成26年初春 —



## 全国屈指の臨床能力の高い医師を育て、愛媛に根付かせる

総合臨床研修センター長・地域医療支援センター長 高田清式

私は当院で総合臨床研修センター長と愛媛県からの委託を受け設置された地域医療支援センター長を兼任しています。2つのセンターは下記構成図のように日頃から密な連携をとり医師の育成と地域医療について積極的な活動を続けています。

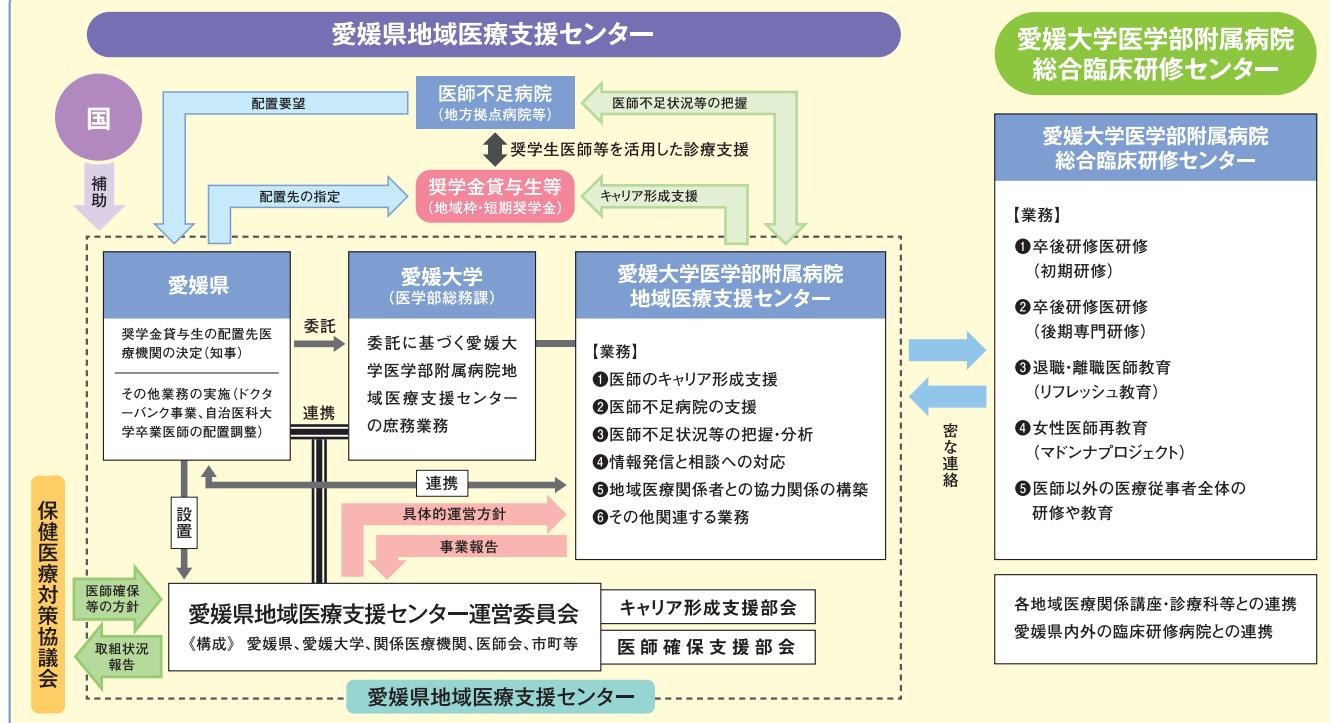
総合臨床研修センターでは、新卒の医師に対して、全国でも屈指の充実した施設とサポート体制で臨床研修を行っています。研修に利用する医療機器も国内有数のものを揃えています。現在の研修制度は様々な科で研鑽を積むことが要求されており、各科・他病院との十分な連携のもと、基礎的で広範囲の医療技術の向上を目指しています。また、新卒だけでなく、育児等で一時離職していた女性医師の再教育や医師以外の医療従事者全体の研修や教育の中心的な役割をも担っています。また地域医療支援センターは、医学生や若手医師に対し地域医療を担うためのキャリア形成支援を行っています。経験を積み重ね熟練した医師に育つまで、切れ目なく継続したサポートを行う組織です。昨年度は地域住民に対してどのような専門医が地域に必要かを主題とした要望調査を行い、今年度は地域の病院に研修医の受け入れ体制や医師の過不足についての調査を行いました。地域の実情や声の収集も大切な要素と考えています。また地域医療関係者で組織された運営委員会の内部に、効率的で具体的な活動を目的にキャリア形成支援部会と医師確保支援部会も設けました。

臨床研修の近況報告では、県下多地点コミュニケーションシステムを使いテレビ会議による症例検討会や先端医療の情報交換などの全国に先駆けた取り組みを行っていますが、さらに新たな取り組みとして、研修医OSCE（オスキー）を計画しています。OSCEとは医学部4回生が受ける全国統一の実技トライアルの試験です。医学部4回生は臨床実習で患者さんを診療する前に、医師面接や診療などのテストに合格しなければなりません。私は、同様に研修医の質を担保するため、研修医OSCEを行いたいと思っています。具体的には研修医の技術レベルの維持と向上のため、愛媛県全体でトライアルを実施したいと考えています。国内では岩手県で唯一行われており、幸い当県は研修医・指導医数の規模や病院間での密な連携の点でモデルプランにも適しています。研修医OSCEをはじめ、これからも県全体の研修医と指導医の質の向上を目指して、様々な活動や課題に取り組みたいと考えています。



### PROFILE

たかだきよのり◎大阪府出身、愛媛大学医学部卒業。1981年から愛媛大学医学部で研修医。専門分野は消化器内科学、感染症をはじめとした総合内科医。松山市エイズ対策推進協議会会長、愛媛県感染対策協議会副会長。2005年、総合臨床研修センター専任助教授として就任、2007年同センター専任教授。趣味は空手、愛犬・アラスカン・マラミュートの散歩。



## Don't fight cancer in the dark (暗闇の中でがんと闘うな)

腫瘍センター長 薬師神芳洋

平成25年、腫瘍センターの化学療法室は新しい場所(新外来棟)に移りました。以前、患者さんにアンケート調査した時に「病室の閉塞感が強い」という意見がありました。がんの患者さんは日常生活も制限されています。外に出たくても、その機会もありません。今回の化学療法室は大きな窓もあり、眺めがよく、15床という十分なスペースが確保されています。

センターが発足して3年が経ち、その間に化学療法が必要な患者さん数が飛躍的に増大、それに比例し主治医の負担も増大しました。そこで、化学療法室の機能強化や診療内容の拡充により、当初少なかった抗がん剤の治療に関与することが増えました。センターの役割はより重要になり、進化しています。

センターには愛媛県全体から通院されている患者さんがたくさんいます。何時間もかけてくる患者さんのために、今以上に安全で日常の中で訪れるこことできるがん治療のシステムを作りたいと考えています。現在「がんプロフェッショナル養成プロジェクト」という、地域でがん治療ができる人を養成して派遣するプロジェクトに関わっています。まずはこれを進めています。がん患者さんは家族だけで悩み悲しむのではなく、そこに専門医が入り、もっとオープンに治療していくことを目指していきます。



### PROFILE

やくしじんよしひろ○愛媛大学医学部・附属病院教授。医学博士。悪性リンパ腫・がん化学療法を専門に活躍する。1993年愛媛大学大学院医学研究科修了。日本血液学会、日本臨床腫瘍学会などの専門医・指導医も務める。大学時代は野球部に所属。俊足の3番、センターを守っていた。

## 愛媛大学医学部附属病院に期待すること

— 愛媛県の救急医療を支える愛媛県立中央病院 —

愛媛県立中央病院長 西村誠明

愛媛大学医学部附属病院に対して、最も期待し望んでいる事は、医師だけではなく、看護師、放射線技師や臨床検査技師など全ての医療従事者の教育です。学生時代はもちろん、卒業後も含めた様々な教育や研修を続けて頂くことは、当院だけでなく地域の病院の医療従事者にとって、期待している事であり、愛媛県全体の医療の質の向上にとって大きな役割を担っていると考えます。今後、医療従事者は、さらに多様なニーズが要求され、時代に見合った人材育成や教育が必要であり、一層の期待をしています。

次に期待していることは、臨床における高度で新しい医療、すなわち高度先進医療です。検査、治療体制などが限られる一般病院では、難病の検査、治療や新しい治療については難しい面があります。愛媛大学医学部附属病院でなければ出来ない事が多く、今後も宜しくお願ひします。

当院は愛媛大学医学部が設置された年に、医学部の関連教育病院となる協定を結びました。これまでの40年間、医学生の実習や研修を通じて、人・技術・教育など愛媛県医療全体の質の向上に繋がりました。今後もお互いの強みを生かしながら、愛媛県の医療の発展に努めて行きたいと考えます。

当院は平成26年12月にグランドオープンします。病院の基本理念である「県民の安心の拠り所となる病院」を実践出来るように、救急医療では屋上ヘリポートの設置、周産期医療での診療機能充実を行い、各診療科で、患者さんを中心とした更なる良質な医療サービスを提供していきたいと考えています。県内の医療従事者が、救急症例を含めた多数の臨床症例を経験することにより、さらなる研鑽に励んで頂くように望んでいます。今後も、愛媛大学医学部附属病院とは、特徴を活かした連携の継続や発展を考えていますので、宜しくお願ひ申し上げます。



### PROFILE

にじむらしげあき○高知県出身、1980年岡山大学医学部卒業。専門分野は腎臓病。検尿症例から、腎炎、慢性腎不全、透析療法までの腎臓病全般を診る腎臓内科医。腎臓学会、透析学会専門医、指導医。岡山大学医学部腎臓内科、高知県立中央病院を歴任し、2004年、愛媛県立中央病院に赴任。2012年愛媛県立中央病院病院長。趣味は読書。

# 愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

## 第3回地域医療再生セミナーを開催



平成25年11月12日(火)、第3回地域医療再生セミナーを開催しました。県内各地域の医療体制の現状と展望、地域医療における機能分担や医療連携について理解を深めることを目的に、地域医療に関する講座を担当している各教授より講演とパネルディスカッションが行われました。約100人の参加者は、地域医療の現状と諸課題について考える良い機会となりました。

地域医療支援センター  
089-960-5990

## 大規模災害訓練を実施



平成25年10月27日(日)、震度6強の東南海地震(広域災害)を想定し、災害拠点病院としての機能強化、実施体制及び地域との連携の確認・検証を目的に大規模災害訓練を実施しました。シナリオのない実践的な訓練を行いました。さらに、原子力発電所で負傷し傷口を放射能汚染した患者が運び込まれたという想定の訓練を行いました。

総務課  
089-960-5122

## 「マイしおレシピ」を発刊



平成25年12月11日(水)、レシピ本続篇として、『ホテルシェフと大学病院の管理栄養士が考えたおいしい! 塩分ひかえめ「マイしおレシピ』を発刊しました。今回のテーマは減塩食です。タイトルの「マイ」には「毎日の」という意味や「マイルド(優しい)」の意味が込められており、個々の食生活に合わせて、段階的に無理なく塩分を減らしていくように作りました。

栄養部  
089-960-5905

## 生活を重視し地域と繋がる チーム医療の重要性を再確認



平成25年11月17日(日)、40周年記念講堂にて第4回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会(支部長:当院櫃本真津医師)が開催されました。総合診療サポートセンターの設立を記念し、「医療連携から生活連携へ～多職種協働による切らない生活者支援に向けて～」をテーマに、田渕典子会長(当院看護部長)、坂本すが日本看護協会会長の講演、及び39演題が報告されました。

総合診療サポートセンター  
089-960-5261

## クリスマス コンサートを開催



平成25年12月18日(水)、当院レストラン愛彩館においてクリスマスコンサートを開催しました。このコンサートは「がん患者・家族サロンあいほっと」の認知と、患者・家族・地域の方々に楽しいひと時を過ごしていただくことを目的として開催しています。谷本光さんによるギターソロ、シンガーソングライターより子さんによる歌と演奏があり、入院患者を中心多くの方々に楽しい時間を過ごしていただきました。

医療サービス課  
089-960-5099

## 編集後記

明けましておめでとうございます。表紙は仕事始め式の集合写真で、新年らしく病院長と看護部長に着物を着てもらいました。本号では連携病院長会議の3つの専門部会の1つである臨床研修等をテーマとして、総合臨床研修センター等の活動を掲載し、さらに若手医師の教育にご協力いただいている愛媛県立中央病院西村病院長に愛媛大学医学部附属病院に期待することについてお話を伺っております。年頭にあたり皆様方の更なるご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。なお、当院病院食が、日本病態栄養学会の「自慢の糖尿病食」コンテストにて最優秀賞を受賞したことを申し添えます。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙  
仕事始め式にて



# 愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 ☎089-964-5111(代)  
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>